

News Letter Vol. 4

2021年12月発行

このニュースレターでは学生達の活躍、講義や実習の様子、学科の取り組み、動物豆知識などを紹介します。獣医保健看護学科に興味を持ってくれた高校生の皆さんとのコミュニケーションツールになればと思っています。

第5回 日本ワンヘルスサイエンス学会 年次学術集会

獣医保健看護学科の藤谷 登 教授が大会長を務めた、第5回日本ワンヘルスサイエンス学会 年次学術集会が2021年9月3日（金）～4日（土）に、今治キャンパス大講義棟にて開催されました。コロナ禍という大変な状況ではありましたが「One World, One Health, One Medicine」という学会の理念のもと、感染防止対策を十分にした上で、現地開催とWeb開催によるハイブリット形式で行われました。



今回、特別なプログラムとして指定講演、シンポジウム、市民公開シンポジウムが同時開催されました。

【指定講演】

「ポストコロナ時代を見据えたワンヘルスサイエンス
ー動物微生物学からの視点ー」

【シンポジウム】

「新型コロナ感染症拡大の経験をいかし、次なる医療崩壊を防ぐために
ー看護師、臨床工学技士、臨床検査技師の立場からー」

【市民公開シンポジウム】

「将来を見据えてー認知症、老化を知り予防するー」

※50名の予約枠がすぐに埋まってしまい大盛況となりました。



また、一般演題では17演題の内、本学科から3名の学生（4年生）が発表を行いました。いずれも卒業研究で取り組んだテーマです。

▶ 「測定法の国際標準化に伴うホルスタイン種乳牛の

血中乳酸脱水素酵素活性値の変化」

安木 碧さん

▶ 「一酪農家における搾乳牛の乳頭口スコアと体細胞数の関係」

崎山 悠さん

▶ 「地域猫の健康状態の把握」

石橋 涼香さん

3名とも会場からの質問にも落ち着いて答えており、初めての学会発表とは思えないほど、堂々とした素晴らしい発表でした。

1期生3名が公務員試験に合格！！

2021年度、獣医保健看護学科の1期生が初めて就職活動を迎えました。本学科では、これまで日本にはなかった「獣医関連専門家（Veterinary Para-Professional: VPP）」の養成を掲げ、獣医療看護・ライフサイエンス・公共獣医事の各分野で活躍できる人材養成に力を入れてきました。中でも、公共獣医事分野では専門知識や技能を活かせる公務員の技術職を目指して、学生が公務員試験にチャレンジし、実際には、国家公務員では農林水産省畜産技術職や厚生労働省食品衛生監視員、地方公務員では愛媛県、沖縄県、栃木県などを受験しました。技術職に限らず公務員試験は非常に狭き門ではありますが、地方公務員（愛媛県、沖縄県、鳥栖市（佐賀県））に3名最終合格しました。また、農林水産省の畜産技術職では最終合格はできなかったものの、1次試験（学力）の合格者を出すことができました。今回は1年生の時期から地道な努力を続け、地方公務員試験に最終合格した2名の先輩たちを紹介します。

山根 優真 愛媛県 上級試験（畜産）

高校生の頃から将来畜産に関わりたという思いがあり、祖父が農家で農業に親しみがあつたことから農業高校に入学しました。農業を学ぶ中で、命の大切さを学び、食に興味を持つようになりました。大学も獣医看護や畜産など幅広く学ぶことができる地元の大学である岡山理科大学に進学しました。大学3年生の時に始めた牧場でのアルバイトでは経営を維持する大変さや命と向き合いながら仕事をする事の大切さも学びました。大学で畜産の現状や課題を学ぶ中で、地元である愛媛県の畜産の発展や振興をしたいという思いから県職員として働きたいと思いました。

2年生の頃まではVPPって何だろう？とっていました。が、動物看護、実験動物、産業動物を学び、どの分野にもVPPが当てはまることが分かりました。牧場でのアルバイトの時、一頭の牛が立てなくなり、横に倒れたまま餌も自分から食べられなくなりました。この牛が最後まで居心地よく過ごすためにはどうすればよいかと考え、餌や水を運んで口元まで持っていき、寝たきりで肩や頭の負担が少なくなるように稲わらや敷物を挟んであげるなどケアを考えました。経営をしていると、どうしてもお金のことを中心に考えてしまいがちになりますが、動物には命があり、人間と同じように様々なことを感じることを忘れてはならないと思います。伴侶動物とは違い、産業動物はお肉になったり、途中で病気になったりして寿命まで生きることが困難ですが、どうすれば生きている間は居心地よく快適に過ごせるかを考え実行することが、VPPの役目ではないかと思っています。

私はこの大学を卒業して、農家さんと動物の気持ちに考え寄り添うことのできるVPPになりたいです。

宮城 貴充 沖縄県 上級試験（畜産）

出身が沖縄県であり、当初から地元で働きたいと考えていたこと、また大学で学んだ畜産や公衆衛生などの知識を多くの人に役立てたいと思い、より多くの人に貢献することができる公務員を志望しました。沖縄県で就職することが第一希望だったことと、コロナ禍での移動が困難であったことから、国家公務員は途中まで受験する予定でしたが、最後は県職員の一本に絞りました。一般企業は受けず、友人が企業の就職対策をしている間も公務員試験対策に時間を充てていました。

大学の授業では、畜産に関係する科目は4年生の授業も履修し、畜産の知識を少しでも増やすように勉強に取り組みました。それも良い方向に作用してくれたのではないかと思います。また私はあまりコミュニケーション能力が高い方ではなかったため、その克服を兼ねてアルバイトとして塾講師をやっていました。その中で、人と話すことに抵抗感をなくすように取り組んだことは役に立ったと思います。人に教えながら、その内容が公務員試験勉強の復習にもなっていたため、その時間を教養科目の苦手分野や畜産分野に充てることができました。

岡山理科大学の獣医学部に入学したことが、畜産や公衆衛生といった分野に目を向けるきっかけになったと思います。畜産分野に関する授業で学んだことと同様の問題が、公務員の専門試験に出題されるなど、大学で学んだことを活かせる機会もありました。

大学では畜産関係だけでなく、VPPとして公衆衛生や動物看護など様々な分野を学んできました。これからの仕事において、広く学んだことで貢献できることがあると思うので、学んだことを活かせるように頑張っていきたいと思っています。

発行元 岡山理科大学 獣医学部 獣医保健看護学科

お問い合わせ先

〒794-8555 愛媛県今治市いこいの丘1-3

TEL（代表）：0898-52-9000

